



このほど4回にわたる検討委員会を終え、子母口小学校の適正規模化の方策について、高津区検討委員会としての「まとめ」を行いましたのでお知らせいたします。

なお、学校の適正規模に向けた考え方や取り組みについては川崎市ホームページにも掲載しています。  
**子母口小学校の適正規模化について**

#### 1 学校規模及び規模の推移

平成17年5月1日現在の学校規模は児童数1,212人、学級数39学級（普通学級33、障害児学級数6）の過大規模校となっており、市内で3番目に児童数の多い学校である。

開校後の児童数は全市的な推移と同様、昭和55年にピークとなり1,436人まで増加したが、その後は少子化の影響とともに減少が続き、平成6年に939人となった。全市的には平成12年まで児童数の減少をみるが、子母口小学校においては、通学区域内の住宅開発が進み一転して増加傾向となってきている。特に蟹ヶ谷地区における集合住宅の開発による影響が過大規模化に拍車をかけた。

#### 2 過大規模と施設の狭隘

子母口小学校の過大規模化による弊害は、「川崎市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方（報告書）」に記述されているとおりである。また、子母口小学校の学校敷地面積は10,000㎡を僅かに上回る程度であり、本校舎、仮設校舎の配置状況からも極めて運動場が狭隘化している。子ども達が使用する教室や管理諸室の不足も慢性化している。

検討委員会では、子母口小学校の現状の通学区域を見直すことで、適正規模化を図ることができないか検討しました。

#### 検討事項 通学区域を変更した場合の課題について

通学区域を14地区に分け、各地区ごとに通学区域の変更の可能性を検討した。

（児童数は平成17年5月1日現在） 地図参照

- ・ A地区（子母口271～311、323、324、552～834 児童数147人）

【状況】 矢上川の北側に位置し、通学区域の中心として子母口小学校が所在する。

【可能性】 学校の所在地でもあり、隣接校との通学距離を勘案すると、通学区域の変更は不可能である。

- ・ B地区（子母口330～340、466～550 児童数86人）

【状況】 子母口小学校とは尻手黒川道路を挟んで至近距離にあり、隣接する学校は中原区の大戸小学校と下小田中小学校である。

【可能性】 隣接校との通学距離等を勘案すると、通学区域の変更の可能性は極めて低い。

・ C地区 (明津 - 尻手黒川道路より北側 児童数 80 人)

【状況】 現在、下小田中小学校への指定変更可能地域となっており、約 20 人の児童が指定変更している。また、南側の D 地区も含めて約 20 人が井田小学校へ指定変更している。下小田中小学校、井田小学校へは尻手黒川道路を横断せずに通学することが可能であり、地域によっては下小田中小学校の方が近距離である。

【可能性】 下小田中小学校は大規模校である。地区のなかで、通学距離等を考慮して既に希望する学校への選択がなされていると考えれば、通学区域を変更した場合の効果は期待できない。

・ D地区 (明津 - 尻手黒川道路より南側 児童数 58 人)

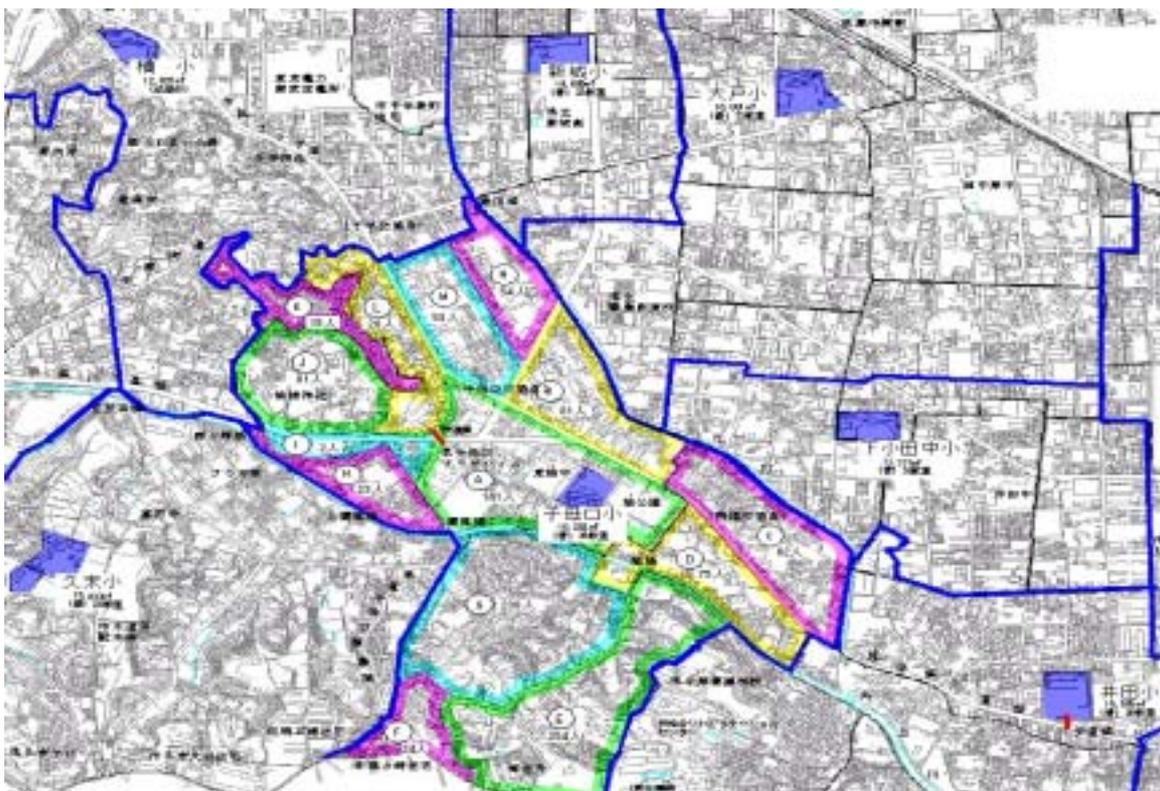
【状況】 北西部は子母口小学校と至近距離にあり、東端の地区は下小田中小学校との通学距離がほぼ同じである。現在、指定変更可能地域とはなっていないが、一部児童が下小田中小学校と井田小学校に指定変更している。下小田中小学校への通学は尻手黒川道路を横断しなければならない。井田小学校への通学は同道路を横断するために学校前の歩道橋を利用することが可能。

【可能性】 C地区と尻手黒川道路をまたいで同じ町会に属しており、西側地区は子母口小学校に至近距離となる。尻手黒川道路を横断することを含めて、隣接する下小田中小学校と井田小学校への通学区域の変更は困難である。

・ E地区 (蟹ヶ谷 4~132 児童数 245 人)

【状況】 南側に入り込む谷戸の東側地域であり、どの学校に通学するにしても子母口小学校近くの橋橋を通ることになる。よって、隣接校への通学は遠距離となる。

【可能性】 生活動線が子母口小学校方面に向かっている。通学距離や地形的な理由から通学区域の変更の可能性は極めて低い。



- ・ F 地区 （蟹ヶ谷 1～3 児童数 26 人）

【状 況】 丘陵地の高台に位置し、横浜市との市境となっている。現在、市営住宅の建て替え中であり、居住児童は少ない。隣接する久末小学校への通学は子母口小学校より遠距離となる。

【可能性】 生活動線が子母口小学校方面に向いている。通学距離、及び、地形的な理由から通学区域の変更の可能性は極めて低い。
- ・ G 地区 （蟹ヶ谷 133～ 児童数 246 人）

【状 況】 E、F 地区と子母口小学校との中間に位置する丘陵地の高台から矢上川まで斜面地を含む地区であり、北部は子母口小学校と至近距離にある。

【可能性】 久末小学校への通学は遠距離になり、高低差のある通学路となることから通学区域の変更は困難である。
- ・ H 地区 （子母口 941～1037 児童数 28 人）

【状 況】 矢上川と尻手黒川道路に囲まれた地区で在住児童数は少ない。子母口小学校へは平坦な通学路となっている。

【可能性】 久末小学校への変更は、現在よりも通学距離が長くなるとともに通学路に高低差が生じるなど、地形的な理由から通学区域の変更の可能性は低い。
- ・ I 地区 （子母口 13～30、258、259、851～881 児童数 5 人）

【状 況】 住宅が建っているのは地区の東部となっており、子母口小学校までは近距離である。居住人口は少ない。

【可能性】 久末小学校への変更は、現在よりも通学距離が長くなるとともに学校へ高低差があるなど、地形的な理由から通学区域の変更の可能性は低い。
- ・ J 地区 （子母口 31～136 児童数 79 人）

【状 況】 尻手黒川道路北側に位置する地区であり、通学距離は子母口小学校の方がやや近い。子母口小学校への通学路は子母口住宅入り口交差点の歩道橋を渡る。

【可能性】 久末小学校へは尻手黒川道路を横断しなくてはならず、学校への通学路は高低差があるなど、地形的な理由から通学区域の変更の可能性は低い。
- ・ K 地区 （子母口富士見台 児童数 13 人）

【状 況】 丘陵地の高台に位置する細長い地域であり、西北部は橘小学校の方が近い。在籍児童は少ない。

【可能性】 当該地区で 1 町会を組織している。児童数が少なく、地区を分割しての通学区域の変更は適切でない。
- ・ L 地区 （子母口 153～257、260～270 児童数 24 人）

【状 況】 プラザ通り沿いの地域であり、南東部は子母口小学校に近く、北西部は子母口小学校と橘小学校の中間に位置する。

【可能性】 隣接校は大規模化が進んだ橘小学校であり、通学区域の変更の可能性はない。

- ・ M地区 （子母口 335～414 児童数 49 人）

【状況】 地区全体が隣接校よりも子母口小学校方が近距離となっている。どの学校へ通学するにもバス通りを横断することになる。

【可能性】 隣接校は大規模化が進んだ橘小学校であり、通学区域の変更の可能性はない。

- ・ N地区 （子母口 415～465 児童数 55 人）

【状況】 地区のほぼ全域が隣接校より子母口小学校に近い。学校への通学はどの学校であってもバス通りを横断しなくてはならない。

【可能性】 隣接する橘小学校は大規模化が進んでおり、中原区の新城小学校、大戸小学校への通学は子母口小学校より遠距離通学になるため、通学区域の変更は困難である。

## まとめ

通学区域の変更の検討にあたり、考慮すべき点としては、

- ・ 児童生徒数の適正規模及び周辺校の平均化
- ・ 通学における距離や時間
- ・ 地形や幹線道路及び通学の安全性
- ・ 自治会、町会等の地域活動の運営
- ・ 行政区及び中学校区との整合

等があげられる。

始めに、行政区となる高津区内での通学区域の変更の可能性について検討を行なった。高津区南部の橘地域一帯は住宅開発等の影響により各小学校の大規模化が進んでいるため、JR南武線が走る区内中央部を含めた広域的な検討も試みたが、変更により新たな課題が増えるばかりとなった。

次に、行政区を越えて、中原区に所在する隣接校を含めて検討を加えた。同地域においても集合住宅の建設等による学校の大規模化が進んできており、通学距離等を考慮した検討においても適切な変更案を見出すには至らなかった。

本検討委員会での検討は、川崎市の財政事情を鑑み、子母口小学校の過大規模解消の方策として安易な学校新設に頼らず、通学区域の見直しによる解決を模索した。しかしながら、隣接する学校や地域事情から、これによる解決は困難であると判断した。そのため、委員会のまとめとしては、用地の確保や財政面等の課題を認識しつつも、橘地区において学校を新設する必要があるとの結論に至った。

本委員会が与えられた検討範囲は以上となるが、協議過程において、学校新設が可能となった場合、高津区蟹ヶ谷に所在する川崎市営四方嶺住宅跡地、及び、中原区に位置し再編整備が予定されている神奈川県立高等職業技術校跡地が適地となる、との意見が多く出されたことを付記する。



川崎市立小・中学校適正規模・適正配置検討委員会事務局（川崎市教育委員会総務部企画課）

〒210-0004 川崎市川崎区宮本町6番地

TEL 044-200-3268

FAX 044-200-3950

MAIL 88kikaku@city.kawasaki.jp

ホームページ <http://www.city.kawasaki.jp/88/88kikaku/home/tekiseikibo/tekiseikibo.htm>